

伝統

の

Tuned by Legacy.
by NEUSPEED

継承

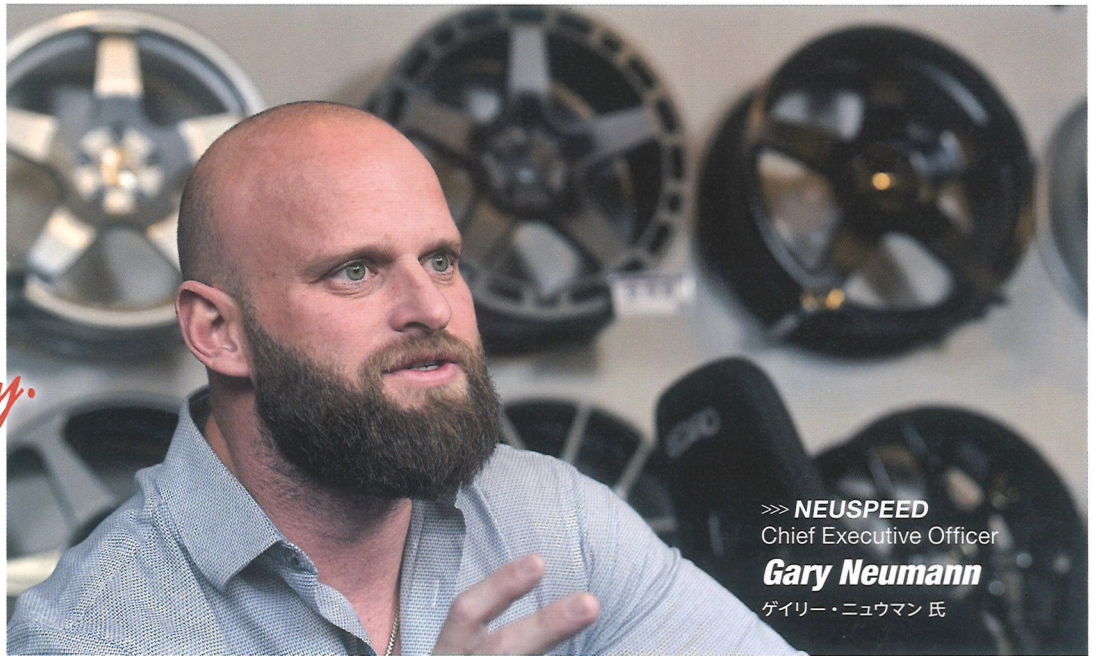
1975年の創業以来、NEUSPEEDは一貫して“限界のその先”に挑み続けてきた。
2004年には業界に先駆けてフローフォーミング技術を実用化し、
鍛造に匹敵する強度とコストバランスを両立した軽量ホイールの開発に成功。
半世紀以上にわたり積み重ねてきた開発思想は
ストリートからサーキットまで、確かな性能として結実している。
2026年初頭、来日した現COO (最高執行責任者)ゲイリー・ジュニア氏に、その哲学の核心を訪ねてみた。

Special thanks:

NEUSPEED
<https://neuspeed.com>

ISHIKAWA ENGINEERING
<https://ishikawa-engineering.com>

report: shiomi Makoto
Photo: WITH PHOTO



>>> **NEUSPEED**
Chief Executive Officer
Gary Neumann
ゲイリー・ニューマン 氏

1975年の創業以来、 NEUSPEEDは挑戦し続けている

守破離(しゅはり)という言葉がある。これは千利休の教えから生まれたものだが、人が修業をして技を身に付けていくとき、まずは師匠からの教えに従い、師匠の型を身に付けることを『守』と表現している。その型が身に付いたのちにそれを土台としながら、自分で工夫をして型を破りつつ発展していくに合った型を模索していくのが『破』の段階。そしてそれらの経験から独自の型を生み出していくのが『離』。この段階を経ることではじめて自分だけの世界、高みを実現できる、ということを表している。

この守破離は会社の経営にも当てはまる。創業者が会社を成長させていき、2代目社長はそこで得た知見をもとにさまざまな挑戦をし、発展させていく。そして3代目社長はあくまでも先代と先々代が築き上げたものをベースとしながら、しかし独

自のスタイルを生み出していくことで、そのブランドの価値を確立させながら時代の変化に対応していく。そうすることでそのブランドは揺るぎない価値を生み出すことができる。

「ニュースピード」の創業者であるビル・ニューマンは、第2次世界大戦前からホットロッドのチューナーとして名を馳せていた。エンジンチューニングはもちろんシャシーのチューニングやボディメイクなど、当時としては画期的な手法でクルマを仕上げ、多くの大会で勝利を手にした。さらに出展したショーではエンジニア部門だけではなく、ペイントや内装の最高賞を受賞するなど、機能性だけではなくメイクの美しさにおいても高い評価を受ける、トータルバランスに優れたクルマを製作していた。

そして1975年、ビル・ニューマンは「ニュースピード」の